

特集

# 専門医に聞く 「認知症」の基礎

市立病院前老年内科  
メモリークリニック院長

中野

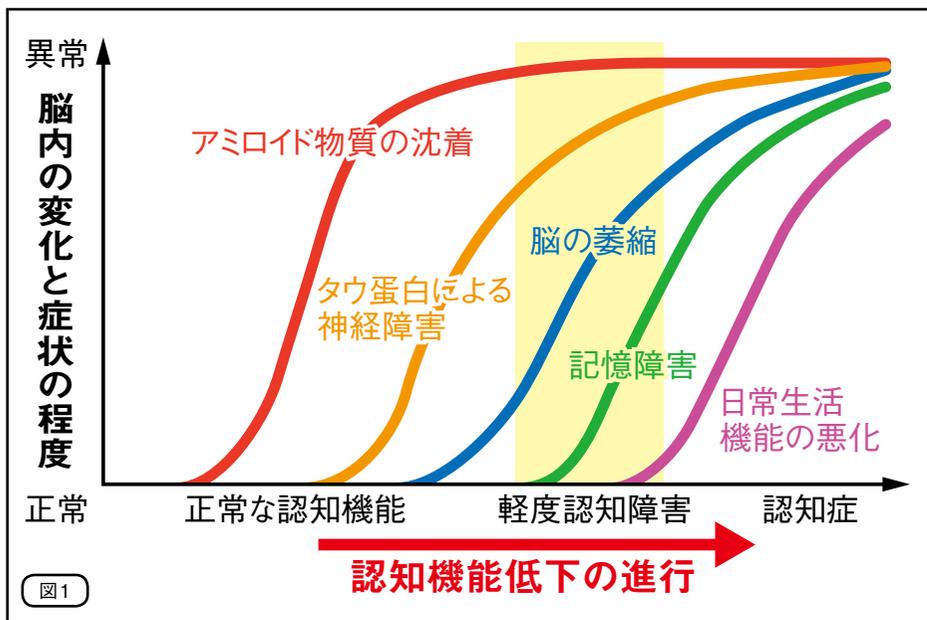
知識  
正剛氏

自己診断

テスト付き



(なかの せいご) 東京医科大学卒。2022年11月開業。日本内科学会認定内科医、日本核医学会専門医、日本老年医学会専門医、日本老年精神医学会専門医、日本認知症学会専門医、日本核医学PET専門医等。医学博士。



した。ただ現在でも若年発症(42〜64歳)の人は、血管性認知症が多いといわれています。

——昨年、新薬の「レ

内閣府が発表した「高齢社会白書」(2017年版)によると65歳以上の認知症高齢者の数は、2025年には730万人と推計され、高齢者の5人に1人が認知症になると言われている。昨年、認知症の新薬「レカネマブ」が認可され話題を呼んだが、夢の治療薬と言えるのか——。

認知症のスペシャリストで知られる市立病院前老年内科メモリークリニック院長の中野正剛氏に、認知症の最前線治療について語ってもらった。

## アミロイドを取り除く

——認知症の種類は。認知症は、認知機能の低下があつて、そのため職業上、日常生活上の活動がまたげられるというのが国際的な定義になつています。心理検査の結果、脳の働きが低下していて誰かの手助けが必要になるのが認知症です。

認知症にはいろいろなタイプがあり、I「アルツハイマー型認知症」は、認知機能の低下が最も多く、次にII「レビー小体型認知症」(20%前後)、III「血管性認知症」(15%程度)、IV「前頭側頭型認知症」(10%未満)の順になつていきます。

血管性認知症は1980年代の日本では最も多いといわれていま

カネマブ」が認可され、夢の治療薬として話題を呼んでいます。

レカネマブは、アミロイドβタンパクを免疫反応で脳外へ除去する作用があり、原因に直接働きかける治療薬として注目されています。ただし病気が進んでしまったアルツハイマー型認知症の方には適用になりませんので、注意が必要です。

適用になるのは、認知症の前段階である「軽度認知障害」(MCI)でかつアミロイドβタンパクが脳に蓄積している方、そして「軽度のアルツハイマー型認知症」の方です(図1)。

脳の中にアルツハイマー型認知症の原因となるアミロイドβタンパクという特殊なタン



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)